

講義名	教養特講（読書力）/読書力			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、一冊の本には著者の色々な思いが込められている。そこで、教科書や課題図書を超えて、そこに記されている内容の中から、時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。

講義では、教科書や課題図書を皆で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文章にまとめ、「書く力」を養う。さらに、受講生同士の会話の時間を作り、「話す力」や「聞く力」を養う練習を行うことがある。このように、「読む」「書く」「話す」「聞く」ことを通じて、「文章を読む」ということに対する読解力や向学心を育てていきたい。

到達目標

学生が、教科書や課題図書を読むことで本に慣れ親しみ、自らが興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の感想や考えを述べるようになる。

提出課題

講義では毎回、小レポート（感想文や講義内容の確認）を提出してもらう。小レポートの課題は、講義ごとに伝える。学期末には、学期末レポート試験を実施する。学期末レポート課題の詳細は、12月前半に、講義中の説明ならびにRUKA portal「キャンパスクロス」の掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

自らの講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、読書に関する考え方として紹介する。

評価の基準

評価は、各回の講義における小レポート（感想文や講義内容の確認15回分、60点）、学期末レポート試験（40点）を総合して評価する。評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

- 【重要】第1回の講義から、教科書を使用する。各自、教科書購入期日に必ず購入し、第1回の講義に必ず持参すること。教科書は、斎藤孝『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076、筑摩書房、2008年2月発行、800円＋税）を使用する。
- 教科書の他に、「大学の図書館に所蔵されている課題図書（文庫本または新書）」を利用する。第2回～第14回に利用する「課題図書の書名」は、第1回の講義の時、次週の課題図書の書名を紹介する。
- 毎回、教科書『読み上手 書き上手』の中から興味のある項目を1つ選び、その内容を事前に読んでおくこと。読む項目（内容）を通読時は、先に目次に記されている「章・節の題名」を見てもらいたい。その目次の中から毎回1つ、各自が興味のあるものを探し、読んでもらいたい。
- 本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を鍛えてもらいたい。
- この講義は、教室で「受講生同士が会話をする」機会を設ける時間がある。詳細は第1回の授業で説明する。

教科書

『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076）、	斎藤孝	筑摩書房	880	9784480687784
----------------------------	-----	------	-----	---------------

参考図書

.なし。

その他

<プリント資料>
プリント資料は、必要に応じて配布する。
<参考文献>
参考文献は、講義中に適宜紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、第1回の講義で説明する。

- 第1回 「読書力とは、読書に慣れ親しむということ」
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第2回 「読書を考える」 言葉を知る
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第3回 「読書を考える」 伝える力を養う
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第4回 「読書を考える」 記録と記憶の技術
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第5回 「読書を考える」 読む技術
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第6回 「読書に親しむ」 民俗学への招待(1)
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第7回 「読書に親しむ」 民俗学への招待(2)
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第8回 「読書に親しむ」 民俗学への招待(3)
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第9回 「読書に親しむ」 日本文化のルーツを探す(1)
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第10回 「読書に親しむ」 日本文化のルーツを探す(2)
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第11回 「内容を理解する」 地域の特性
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第12回 「内容を理解する」 日本の生業
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第13回 「内容を理解する」 人間社会と自然のバランス
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第14回 「内容を理解する」 日本の生活文化
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書や課題図書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。
- 第15回 「まとめ」 読書を習慣化することの意味
本課内容：教科書の中から、各自が興味のある項目を1つだけ選び、事前に読んでおく（120分）。
復習内容：講義中に紹介した教科書の要点（キーワードやポイント等）を確認する（120分）。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
 (2) 知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材
 ・ 課題抽出・課題解決に必要な資料を見定め、適切な手法を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
 ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
 ・ 現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
 ・ さまざまな条件・制約を考慮し、現実的な解決・選択し、課題の解決に向けた道筋や計画を明らかにした上で、具体化することができる(構想力)
 ・ (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
 ・ 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
 ・ 他者との意見の違いや立場の違いを自覚し、協力して物事を進めることができる
 ・ 自分と他者の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる
 ・ 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義では、各回の前半は教科書等を用いた講義の形式で進める。また、受講生の会話の時間を設ける。各回の後半は、その日の講義のテーマや選定のテーマの内容について、各自でレポートを作成する。

実務経験の有無及び活用

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関する書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関する現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

備考

一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず各自が興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。